

第57回学習会を、平成27年1月16日(金)19:00~20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

第57回の内容

講師 重枝一郎先生

アクティブ・ラーニング授業

- 1 アクティブ・ラーニングとは
- 2 アクティブ・ラーニング型授業とは
- 3 アクティブ・ラーニングの質を高めるために
- 4 ラーニング・ピラミッド
- 5 学習過程



アクティブ・ラーニング授業

1 アクティブ・ラーニングとは

- ・生徒の能動的な学習を取り込んだ授業を総称する用語(能動的学修)
- ・よって、アクティブ・ラーニング(AL)が示す授業の形態や内容は非常に幅広い(100%講義形式でなければAL)
- ・知識が使える人材の育成をめざす
- ・中教審答申(12/22)
「高等学校教育については、主体的・協働的な学習指導法であるALへの飛躍的充実を図る」

2 アクティブ・ラーニング型授業とは

- (1) 書く・話す
 - ・質問を書かせる
 - ・説明する
 - ・レポート
 - ・討論
 - ・プレゼン
 - ・理解度テスト
- (2) 他者(生徒同士,教師,専門家,地域等)の視点を入れる
 - ・グループワーク
 - ・ピア・ラーニング
 - ・振り返り
- (3) 課題を課す
 - ・最初に小テスト
 - ・新たな知識・情報・経験へアクセスさせる
 - ・M-T-M方式

3 アクティブ・ラーニングの質を高めるために

- (1) まずは基礎・基本
 - ・座学で前提となる知識を学ぶことができ、与えられる課題をしっかりとこなせるという学びにおける基礎・基本があり、その上で個性と応用力を育むのがアクティブ・ラーニングである。
- (2) 普段の授業
 - ・通常1コマなので、その1コマの中を「講義であれば、生徒自身が知識を使って表現する時間を設けるとか、演習であれば逆に知識にこだわる」やり方。

(3) 教師の力量
生徒の学びにどれだけ指摘・助言ができるか

「リクエスト+Iメッセージ」

「理由+命令+脅し」

「来年受験なんだからしっかり勉強しなさい。油断したら行ける高校ないぞ！」

【理由と脅しで人は動くと思っている。一時的。脅しのレベルを上げていく。外圧がなくなると行動が消えるかも】

「リクエスト+Iメッセージ」

「緊張感をもって練習しよう。おまえらの集中力がほしい」

「しっかり勉強しよう。応援している。伸びが楽しみ」

「Aの存在を認めて。それができる君たちだと信じている」

「部屋を掃除して。自分のことは自分でやれるようになったらうれしい」

【人は成長しようとする生き物と思っている。相手の表情が違う。うれしいという評価。ありがとうが自然に出る】

(4) 「知識を活用する力」以外にも、生徒のどのような力が伸びるのかに注目期待できる
「学士力」「社会人基礎力」

「学士力」

・汎用的機能

コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー
論理的思考力 問題解決力

・態度、志向性

自己管理能力 チームワーク・リーダーシップ 倫理観
市民としての社会的責任 生涯学習力

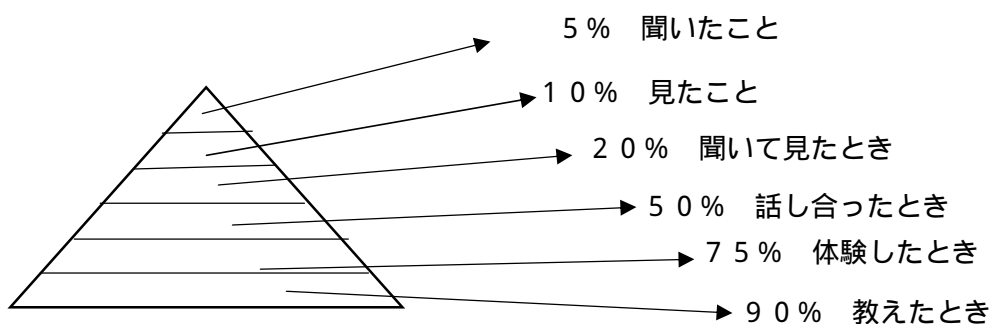
「社会人基礎力」(3能力12要素)

前に踏み出す力(主体性、働きかけ力、実行力)

考え抜く力(課題発見力、計画力、想像力)

チームで働く力(発信力、傾聴力、柔軟性、情報把握力、規律性、ストレスコントロール力)

4 ラーニング・ピラミッド



5 学習過程

学習内容の説明（15分）

プレゼン

問題演習（25分）

個 グループ みんなで満点をめざす

小テスト（10分）

小グループで答え合わせ 振り返り（ここだけでもアクティブ・ラーニング）

解説

アクティブ・ラーニングとは

生徒の能動的な学習を取り込んだ授業を総称するのが「アクティブ・ラーニング」です。だから、アクティブ・ラーニングが示す授業の形態や内容は、非常に幅広くなります。例えば、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習などや教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなどの方法があります。

あまり難しく考えず、100%講義型でなければ、アクティブ・ラーニング型授業であると捉えてよいと考えます。目新しいことは特にありません。ただし、中教審答申（12/22）では「高等学校教育については、主体的・協働的な学習・指導法であるアクティブ・ラーニングへの飛躍的充実を図る」と明言されています。さらに、大学入試が変わります。今後、流れができてくると思われれます。

アクティブ・ラーニングの定義は「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」です。

どのように学ぶか

何を学ぶか（内容）も大切ですが、どのように学ぶか（学び方）も重要です。

アクティブ・ラーニングは、従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業からの転換です。つまり、生徒が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的な学びは、受け身ではなく、主体的に考える力を育成します。「前を眺めている・聞いている・ノートをとっている」という学び方ではなく、「討論している」「交流している」「他者に説明している」「自分の考えを書いている」などの学び方になります。

学ぶ内容を理解していないと、人に説明したり、文章に書いたりすることはできません。つまり、理解度が高くなる方法なのです。

予習テスト

例えば、運動では「基礎練習」にあたるトレーニングが重要です。しかし、トレーニングよりも本番の試合の方が楽しいものです。そこで、いきなり試合をさせて、どんな練習が必要なのかを考えさせると、主体的にトレーニングに向き合うことができます。トレーニング後にもう一度試合をすると、伸びが実感できるので、自己効力感も高まります。

それは、勉強でも同じです。学びの基礎・基本が理解できていないと、アクティブ・ラーニング型授業はできません。そこで、習う前に「予習テスト」をしたり、「調べ学習」をしたりすると、授業が復習のようになり、主体的に授業に取り組むことができます。このように、いろいろなやり方があります。

メリハリをつける

アクティブ・ラーニング型授業を成立させるためには、教師はきちんと「説明型」(講義型)の授業ができ、生徒はきちんと座学で基礎・基本を学べることが前提となります。

また、説明(講義)する時間と活動させる時間のメリハリをつけると、活気あふれる授業になります。説明が多くなっていると感じたら活動を入れたり、活動が多くなっていたら説明を入れたり、自分の授業を客観視して相手意識をもつ習慣を身に付けましょう。そうすると、授業力が向上します。

段階を工夫する

授業の中で、段階的に「できる!」という感覚をもたせるようにすることも有効です。

最初は、誰でもできる問題:「私はできる」という感覚

次は、友達との交流でできる問題:「私たちはできる」という感覚(チーム効力感が高まるような課題)

最後は、先生にすぎるような問題:教師もチームの一員になって、チーム効力感が高まる

このような展開になるように、授業を工夫すると、活気あふれる授業になります。

理論を背景にする

理論は、一概にこうすればうまくいくというものでもないのですが、教師として力量を高めるために学ぶ必要があると思います。理論的なものが背景にあると、説得力が増します。

例えば、ラーニングピラミッドは、アクティブ・ラーニング型授業をするうえでの根拠になります。ペア学習や小グループでの学び合いをするのは、学びの記憶が高まり、点数が上がるからと説得することができます。さらに、「学士力」や「社会人基礎力」につながる能力だと関連付けることもできます。

このように、理論を背景にして話すと、伝わりやすくなります。

また、「リクエスト+Iメッセージ」で伝えると、子どもは抵抗感をもたずに教師の指摘や助言を受け入れられます。無意識的にできるようになるのが理想です。

成果を上げている学校の学習過程

成果を上げている学校の一般的な学習過程の例として、下記があります。

学習内容の説明(15分)

プレゼン

問題演習(25分)

個 グループ みんなで満点をめざす

小テスト(10分)

小グループで答え合わせ 振り返り(ここだけでもアクティブ・ラーニング)

小グループで答え合わせをするだけでも、アクティブ・ラーニング型授業になります。

また、振り返りだけでも、アクティブ・ラーニング型授業になります。

振り返りでは、意味面と感情面の両方を行うことが大切です。感情交流をしておく、よい雰囲気伝染します。人間関係づくりにつながります。きちんとルールのある中で、人と交流し「うれしかった」という感情を共有することが大切です。そのためには、常に相手の立場に立つことを意識させておきます。それが、社会人基礎力の中の「主体性」や「働きかけ力」につながるのです。このような力を高めることも、期待できます。

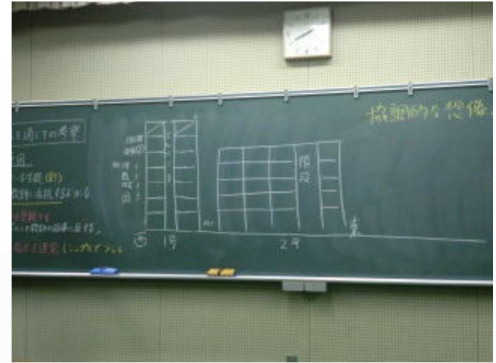
『社会で許されないことは、学校でも許されない。社会で許されることでも、学校では許されないことがある。家庭で許されることでも、学校では許されないことがある。人に迷惑をかけないことでも、学校では許されないことがある。学校とは、みんなで活動するところ』

「みんなで活動する」学校での在り方を教えることは、社会の中で生きていくための考え方を教えることです。

演習 先生ばかりが住んでいるマンション

「先生ばかりが住んでいるマンション」は、学級全員で行うGWTです。GWTは、4人～6人くらいの班で行うことが多いので、学級全員（30人～40人）が参加して行うGWTは、かなり難しい内容と言えます。

だから、教師の介入が重要になります。全体の様子を見ながら、タイミング良く働きかけます。そして、きちんとルールのある中で課題を解決させ、生徒達に「うれしかった」という感情を共有させます。そうすると、自然により雰囲気学級に浸透します。



このGWTは、リーダーシップとメンバーシップの両方がないと、正解できません。司会者のリーダーシップで学級全員が常に集中して参加していないと、情報が確定しないのです。

生徒は、自分の持っているカードの内容を発言したら終わりという気分になるのですが、それではうまくいきません。全員の生徒が情報をもっているのに、一部の生徒だけが発言したり考えたりするのは、絶対に正解できないようになっていきます。

しかし、学級には様々な生徒がいます。集中力のない生徒や自分から意見が言えない生徒など、学級全体をみると微妙な温度差があります。

クラスで話し合いをする時も、一部の生徒や声の大きな生徒の意見だけで決まることがあります。それでは、学級全員で合意形成したことにはならないのですが、そのことに気付かないリーダーは、「こんなに早く決まった」と満足してしまったりします。

そこで教師は、本当に大切なのはスピードではなく全員の納得だということをリーダーに気付かせるようにします。

教師はリーダーに、メンバー全員の表情や態度をよく見ることを求めます。メンバーの中にはオープンに意見を言えない生徒もいます。しかし表情を読んで、うまくリーダーが発言を促せば、意見を言うことができます。そのような関係をつくるのが、ひとつのねらいです。

また、メンバーにはリーダーに協力するメンバーシップを求めます。

タイミングよく活動を止めて、「リーダーは、みんなにどんな風にしてほしい？」と尋ねることも効果があります。

リーダーは先生の問いかけに、次のような発言をすることが予想されます。

- 「関連する情報をもっている人に、進んで発言してほしい」
- 「情報が入り交じったら、リーダー任せにしないで、一緒に考えて整理してほしい」
- 「タイミング良く情報を言ってくれるから、助かる。今の感じでお願いします」
- 「お互いに、良い感じで声をかけてほしい。盛り上がってほしい」

このようなリーダーの発言があると、メンバーシップを強く意識した活動が促されます。最初よりも積極的に意見を言ったり、良い発言に反応したり、拍手をしたりと、盛り上がる「空気」が生まれます。タイミング良くパスを出すことでゴールに近づくことが意識できるようになっていきます。

このように、教師の介入によってリーダーとメンバーの距離が近づき、よい雰囲気が生まれます。

GWTの振り返りでは、いいリーダーはいいメンバーに、いいメンバーはいいリーダーになれることに気付かせ、リーダーとメンバーの両方を体験することの意義を実感させます。

また、誰のどんなところが良かったか、どんな言葉が嬉しかったかなど、人の良いところを見つけて発表させます。できるだけリズム良く、どんどん発表させます。意図をもって指名することも効果的です。そうすると、自己効力感や自己肯定感を感じることができ、一体感が生まれます。

GWTをすることで学級が劇的に変化することはありませんが、即効性を求めず、何度も体験させることで、あたたかな人間関係を育むことができます。

今回のキーワード

アクティブ・ラーニング

能動的学修 学修とは、一定の課程を学ぶ場合に用いる

M-T-M (マッチ・トレーニング・マッチ) 方式

リクエスト+1メッセージ

学習会に参加された先生方の感想

(参加人数 23名)

- ・実際に自分が体験してみて、生徒はこのような気持ちなのだということがよく分かりました。昨年、何かあるごとに、リーダーに対して文句を言う生徒がいて、「先生ばかりが住んでいるマンション」の司会をさせました。その後、大きな変容がありました。
- ・「先生ばかりが住んでいるマンション」は、とてもおもしろく、リーダーとメンバーの両方を育てるために、ぜひ活用していきたいと思いました。アクティブ・ラーニングは自分でも無意識のうちに使っている内容はありましたが、意味を理解して意識的に活用していきたいです。
- ・アクティブ・ラーニング型授業というと、少し構えてしまいましたが、最初に小テストをするだけでも、振り返りをするだけでも、アクティブ・ラーニングになるとわかったので、少し気楽に取り組めそうな気がしました。グループワークトレーニングも、今まで班でやってきましたが、3年生も最後の学期なので、学級全員で今日演習した「先生ばかりが住んでいるマンション」をさせてみるのもよいなあとと思いました。受験できついと思っている子ども達に、ほんの少しの間でも、ほっとしたり、みんなと協力したりして、楽しいと感じさせたいと思います。
- ・偶然にも本日、自分が担任をしているクラスで、「先生ばかりが住んでいるマンション」の超簡単バージョンを行ったので、生徒の気持ちや進め方がよく理解できました。また、クラス全体でするやり方も学ぶことができました。リーダーシップとメンバーシップの関わり方もわかりました。
(みんなと協力して一緒に活動するのは、楽しい時間です。そのような活動をできるだけたくさん経験させたいです。まずは、質より量です。そのうちに、質も高まってくると思います。)
- ・理論と演習とがあり、わかりやすくとても勉強になりました。初めての参加だったので、構えてきましたが、参加してよかったと思いました。
- ・初めて参加させていただきました。マンションのアクティブティーは、非常におもしろかったです。教科が英語なので、どうにか取り入れてみたいと思います。授業中のメリハリをつけるのは難しいですが、座学とアクティブティーの時間を上手に取り入れようと思います。
- ・アクティブ・ラーニング型授業を目標に、授業を行っているつもりです。今日の学習会を聞いて、子どもたちの発言している声に耳を傾け、子ども同士をつなげていくファシリテーター的要素をもっと培おうと思いました。また、明日から、リクエスト+1メッセージを大切にしていきたいです。
- ・本日、アクティブ・ラーニングという言葉をはじめて知り、講義と活動を柔軟に取り入れることの大切さを学びました。まさに、この風土会がそれだ！！と感じています。全員でのエクササイズは非常に一体感があり、途中の声かけ(感情面)が生徒のよい刺激になると感じました。
(たしかに、風土会はアクティブ・ラーニング型授業だと思います。体験して感じたことを、日々の授業に生かしていただくと嬉しいです)